

令和四年九月二十四日 愛礼の儀

神 示

皆信者の思礼いを 神は受け取る

神の手の中 住み入いって 心は 安心 安泰

夫婦 親子で 「教え」を学ぶ

思心いは一つに重なり 迷う思心いは消えてゆく

一日一日 「教え」に生きて 感謝・報恩の心を欠いてはいけない

感謝の思心いが 「生きる」心を強くする

出会いいの全てを 感謝の思心いで受け止め 奉仕で返す

そこに 「心」明るく 強く 生きられる

迎える年は 心に「夢」を抱いだいて生きる

心迷う時 「教え」を支さえに 家族で思気持いを語る

自然と気持きもちちは流れ 家族の愛に「心」包まれる

神 示

皆信者の心人生に「夢」を与えん

心迷う時 「教え」を学ぶ

「教え」を読み込むほどに

心の揺らぎは収まり 愛あいしん心が引き出されてゆく

家族・縁者 友人・知人へ向ける思こころいが 愛となる

「愛」強ちかき心が 「希望の光みち」を 強く 太く通し

「運命」の力を引き出す

迎える年も 皆信者の心は 神の手の中包まれて 安心 安泰